

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

**事業所名**

あいの里シルバーメイツ

日付 平成 21年 3月 30日  
特定非営利活動法人

**評価機関名** ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験10年

評価調査員 在宅介護経験15年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

**1. 評価結果の概要**

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

グループホームあいの里シルバーメイツは、医療法人「青木内科小児科医院」を母体とする事業所の一つである。青木内科小児科医院は今から約25年程前に岡山市大福地区に有床診療所として出発した。子供から高齢者に至るまでの幅広い医療やケア面で地域に貢献し続ける中、老人のデイ・ケアを始めているという話を私が聞いたのは、平成の始め頃だっただろうか。当時、認知症の家族を抱えていた私は、家から遠く離れたこの法人の名前を記憶している。医療法人が母体となっているグループホームは数多く存在しているが、認知症対応の医院は数少ない。そしてもちろん、有床診療所や老健施設等も併設されているので、先々の安心も確保されている。本人・家族・職員共々、将来に不安を覚えることなく、心穏やかに日々を過ごせるのが一番うれしい事ではないかと思う。

管理者は「こういった数々の支援が得られるという状況をしっかり活用しながら、家族だからこそできる事、職員だからできる事の双方の持つ力、特長をそれぞれ上手く活かしていきたい。さらにこれらに加えて地域の人達の力がいただけたら…」と熱く話す。この管理者の言葉を、私は今日一日、利用者の皆さんやスタッフと共に過ごす時間の中で、各種の記録の中で、数多く確認することができた。なかでも「家族だからこそ…」が、これ程実現しているホームはまだ数が少ないのではないかと思う。地域の人達の日頃からの応援は、25年の地盤があるとは云え、ホーム側の熱意もあつての事だろう。近隣の人達が、「我が街のホーム」と思ってくれたら百人力である。

こういった多くのバックアップの力を得ながら、職員は利用者が自分で出来る事は自分ですという自立へ向けた支援に一生懸命取り組んでいる。歌が好きで皆一緒によく歌ったり、リハビリ体操もするが、「我が道を行く」とばかりに自分の決めた生活を自分のペースでしている人もいる。身体的なケアは勿論のこと、一人ひとりの心の内まで思いを馳せる事ができる職員の支援があるからこそ、利用者の皆さんが元気で、「1年振りにお会いしますが、相変わらずお元気ですね」という事になるのだと思います。「変わらない」どころか、目を見張る程の変化にびっくりする入居者も居て、心底「このグループホームって、すごい！」と感心してしまいました。

特に改善の余地があると思われる点

医療法人が母体である場合、身体面の医療的支援が重視されがちで、それは当然の事と思うが、このホームについては、認知症ケアの専門医のお膝元という特別な環境にあるという事もあって、勝れた内部研修も実施し、毎年数々の「医療と介護の連繫・中でも認知症の人の心をよく理解した上でのケアの実践」を見せてもらっている。先駆的な立場から、今までの実践を踏まえて、このホーム独自の新しいケアプランのあり方を検討して欲しいと願っています。

## 2. 評価結果 (詳細)

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…「安心して暮らせる地域づくりのお役に立ちたい」という。法人全体としての願いも、「一人暮らしの気ままさと、仲間が居るから安心して笑顔が生まれる日常」を目指すこのホームの思いも、嘗々と変わる事なく引き継がれている。そして、具体的な年目標については職員間でよく話し合われ、着実に実現されていて、努力の足跡が目に見えてよく分かる。</p> <p>2. 全体的に見て…このホームでは以前より、ある利用者の家族が給手紙の先生として、実によく楽しくユニークな教室を定期的に開いてくれている。私が訪問する毎に展示会をしたい程の面白い作品がリビングルームに飾られている。この給手紙の他にも職員は家事や楽しい事を誘い「それぞれのやりがい・生きがい」を実感してもらえるよう支援している。このように「個々を尊重しながらも、せつかく仲間と一所に暮らしているんだから、みんなで楽しもうよ」を目指して実現している。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…特に改善項目には挙げられてはいるが、職員の日々の気付きから、利用者が安心して穏やかな気持ちになる為の小さな工夫や変化を積み重ねている。その為に利用者や家族の意見にもよく耳を傾けている。</p> <p>2. 全体的に見て…他のホームではあまり見られないこのホームの特長の一つが「利用者が落ち着いて暮らすための場づくりに、家族の強い思い入れが大きく関わっている」ということだろう。玄関を見渡しても、リビングルームでも、そしてもちろん各居室でも、いつも家族が一緒にいるようだ。あちこちに飾られた生け花、飾り物、絵や手作りの作品、大型テレビ、その他数多く家族が持ち込んだ物が果している役割は大きい。私自身もかつて家族が施設でお世話になった経験があるので、良く分かるような気がしている。このような場づくりを支援しているスタッフと、このホームとがっちり手を組んでいる家族にエールを送りたい。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…利用者一人ひとりの「自分史づくり」をこの1年位でまとめるという目標は、認知症という病気のせいにしてしまいがちなケアの現場の中で、その人の本質をしっかりと把握するという意味からも、この先本人や家族から情報が得にくくなった時のための貴重な記録になるというメリットからも、大変有意義な事と思う。</p> <p>2. 全体的に見て…日々職員が利用者に関わっていて、その言動や行動の中で気付く事はたくさんある。「これは！」と思う事を直ぐにメモして収集する。それを大切に集約して可能な事は直ぐ対応したり、必要な場合は協議の場に持ち込む。こういったシステムが出来上がってしばらくになる。試行錯誤が繰り返されており、私はこの成果に注視し続けている。職員の「気付くためのアンテナ」の感度が鋭敏になり、疑問を持つ事、協議し合う事等で、職員の力に磨きがかかると、今以上に利用者への理解も深まることだろう。これに加えて「自分史づくり」の情報収集が、その効果に拍車をかけるに違いない。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…より良いサービスの提供に向けて精一杯の力を尽くしているにも関わらず、「果して現状で良いか」常に振り返り研鑽を積んでいるホームである。法人全体として、またホーム独自の研修等も積極的に計画し、自主評価に記さないまでも向上も為の努力を管理者以下職員全体で重ねている。</p> <p>2. 全体的に見て…「サービスの質の向上」や「問題発生時にすべき事」等も視野に入れて、このホームは当初より「家族との関係性」及び「地域に密着したホーム」に重点を置いて可能な限りの力を注いできた。そのかいあって、家族はホームの良きパートナーとなり、他では見受けられない程の親しさと信頼関係の深いものになっている。地域の人達とのつながりも年々進んでおり、運営推進会議には町内の人達の参加も多く、家族も含めると毎回十数名もの参加を得て内容も充実している。地域住民や家族から活発な意見が出ているだけでなく、利用者の声や、事故報告・外部評価</p>		